「苦」と「しめ縄」

しめ縄の特徴

工法に重ねだけの編のワラなので、すぐに手に入る。
空間作時間が短時間で作ることができる。
ふたたくことで柔らかく、加工がしやすい。
柔らかいため、触りすぎると崩れる。

工法の特徴を考えて、素材では柔らかすぎるため、入手を入れたり、またのれんにしてみると、触れるのでばらばらと落ちてしまう。そこで、私は1つの枠にできたワラ棒を並べて、間仕切り壁を作ってみた。

ワラの特徴

▶表
ワラとワラの間から風が通り抜ける。断熱効果の低減分を抑くし、い草の香りも届ける。

▶裏
中を空間にしているため、空間を間仕切りながら、ワラから離れる光が間接的を明るくする。

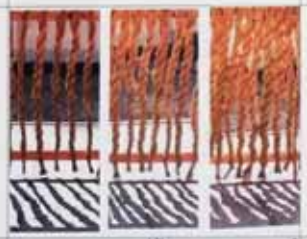
苦

伊勢は「苦行」という考えがある。
光年遷宮のように神宮を常に苦りをし、美しく保つために、正殿を建て替える。それと同時に古者へと受け継がれ、神宮も時間も常に苦り替えられていく。
しめ縄も1年に一回作り替えていく。

苦

私の町ではしめ縄で子供誕生となったときや古墳記念の中学校で、一年中、門にしめ縄を飾る慣習がある。一年中飾っていても苦の飾れないで、文化しめ縄は、保温性・耐寒性の優れた苦を伝統的な伊勢の編み方で編み月のもったしめ縄となる。このしめ縄の特性を活かせば、新しい建材となるのではないだろうか。そう考えた私はしめ縄購入してみる私の祖父から作り方を教えてもらった。

制作時間
約15分

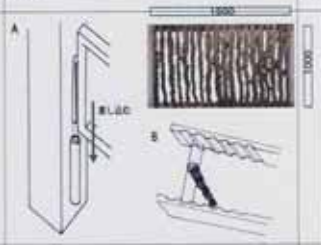


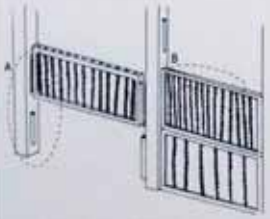
ア　本数　キ
オープン　用途　プライベート

本数を調節することで光・風を部屋の用途によって使い分けることができる。

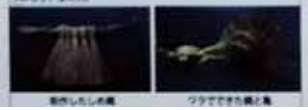
ワラ壁の工法

構築していたときはワラ棒を釘で打ち付けて固定していたが、ワラ壁を実際に間仕切り壁と使う場合では危険性がある。住宅の中で安全に使うことを考えた時、下図のA、Bのようなかたちで固定したい。Aの図は柱についた空間の棒に、柱に新しい棒を差し込む。Bの図は釘のかわりに木と木でワラ棒を挟み固定することで安全性を考えた。また、図1のように1m×1.5mのワラ壁を3段連ねることができるようにした。このことで半分だけ間仕切ることができ、空間に一体感がうまれる。





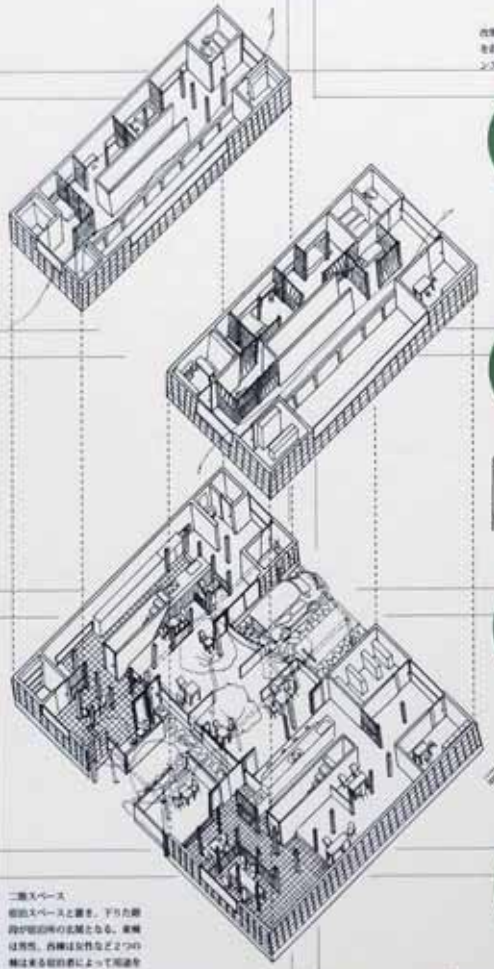
しめ縄を制作するにあたって、実際に1.5分間、作り方を教えてもらった。教えてもらい自分なりにしめ縄の建材の使い方を検討してみた。検討した結果、しめ縄の上端の建材が鍵となるのになっており、作り方も1段階を重ねの工程本に制作できた。制作時間も約1.5分間で完成し、手順に示されるものだと分かった。また、右下の写真のように、しめ縄では切り込みがられた方、結ぶこともできる。これは手順5の「ただ」という行為がワラを柔らかくし、しめ縄が自在に加工できるようにしているのだ。


制作したしめ縄　ワラでできた縄と鳥

完成模型写真

空き地の内観

改築前の現在の空地 模型写真

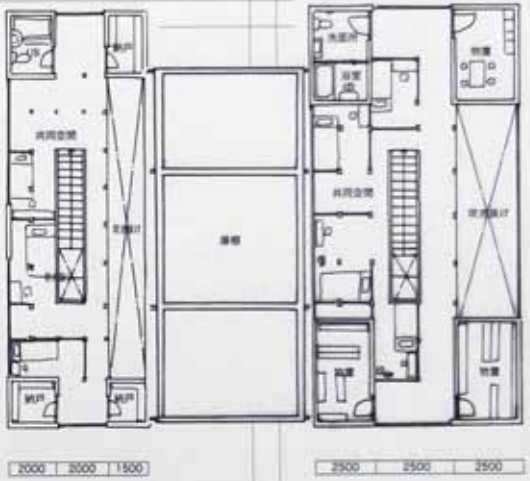


改築前にあった耐力壁を開口部を設けたことによる耐震のバランスを以下の4つでまとめる。

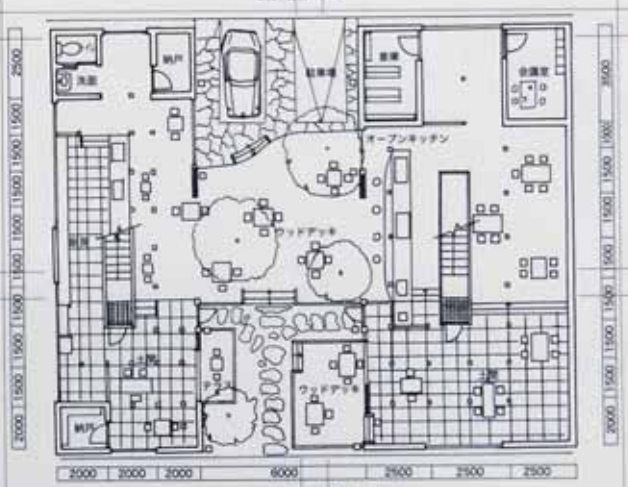
二階スペース
仮設スペースと置き、下の方階段が昭和時の名残となる。東棟は男性、西棟は女性などの2つの棟はある程度者によって用途を変化させる。

一階東空き地スペース
この関係の中ではカフェとしての利用だが、ワラ壁の間仕切りによって、児童教育科程教室に使えることができる。

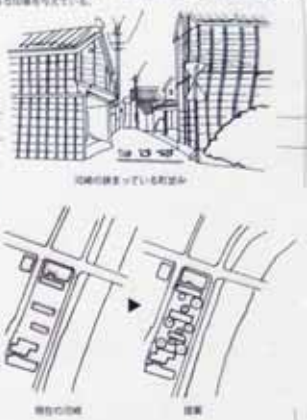
立面図 1:200



2階平面図 1:100

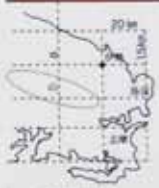


1階平面図兼配置図 1:100



私はこの沿線の空き家を解体を補えた空き地でつなげ、個々だった町並みに一体感を持たせたい。また、空き家になっている建物に開口部を設け風、光を取り入れる。取り入れられた光、風が壁によって遮られないように柱だけを置いて、ワラ壁を間仕切り壁として空間を作り始める。この元の空き家の有効を開けることで、古有の空き地とつなげることができる。狭かった空間がいっきに開放的な空間へと変わった。この空き家はその隣り合った空き地も含めて考え、これが町全体へと広がれば、狭まった印象の沿線が空き家のように開放的に変わる。

平面図 1:200



私の住む伊勢は山に囲まれており、伊勢山脈の南部・志摩は そのふもとによって交通などが不便なものとなっている。志摩や南部から通う学生や、伊勢から また和歌、津へと通勤する人は毎日2～3時間かけて通勤通学している。一人暮らしをする家族や乗り通うほうが 安全はわからないが、時間を考えると圧倒的に時元を優れ なて行く人が多くいる。そのため若者の人口が減少している。高齢化が進んでいて、高齢化が進んでいる。

そこで提案したいのがこの沿線の建物を利用した伝統産業創造のための宿泊所だ。海辺や志摩から通勤しながら、仕事の忙しさや休暇などの状況に合わせて、一時的にでも滞在所にも宿泊できる。宿泊する際、2階の共同部の空間をワラ壁を使って自分で必要な空間を作ることができる。宿泊所といっても ワラ壁で間仕切り、お風呂などは共通なのでリーズナブルな価格で 生活に支障なく宿泊できる。